

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	足利大学
設置者名	学校法人足利大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
工学部	創生工学科	夜・通信	0	6	8	14	13	
看護学部	看護学科	夜・通信		5	8	13	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページにて公表 https://ashikaga.ac.jp/jouhou/ HOME→教育情報→II-3-3. 実務経験のある教員等による授業科目欄に掲載
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	足利大学
設置者名	学校法人足利大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://ashikaga.ac.jp/yakuin/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社社長	2026.6.10 ～2028 会計 年度の定時 評議員会終 結のとき	地域連携
非常勤	信用金庫理事長	2025.6.11 ～2028 会計 年度の定時 評議員会終 結のとき	産学連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	足利大学
設置者名	学校法人足利大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 毎年、12月～翌年1月の教務委員会において、次年度に掲載するシラバスの項目・内容について検討しその結果を具体的まとめたうえで、2月中旬に科目担当教員に向けて作成依頼を行う。 科目担当教員は3月中旬までに編集作業を完了させて、その後教務委員による記述内容の確認作業を行う。 確定版のシラバスは4月の履修登録に合わせて大学ポータルサイトで公表する。 また、学外には4月中に大学ホームページにて公表する。	
授業計画書の公表方法	本学ホームページにて公表 https://ashikaga.ac.jp/jouhou/ HOME→教育情報→II-3-2. シラバス欄に掲載
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則11条(成績の評価)で示されている成績評価を厳格かつ適正に行うため、工学部においては足利大学学工学部科目履修規程、看護学部においては足利大学看護学部学科目履修規程を定めて履修登録、成績評価が行われている。 また、各授業科目レベルの具体的な成績評価基準を、シラバス内の「評価基準及び成績評価方法」において学生に明示したうえで成績評価が行われている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価の内容によるGPは、次のとおりとする。 (1) S (90～100 点) GP=4 (2) A (80～ 89 点) GP=3 (3) B (70～ 79 点) GP=2 (4) C (60～ 69 点) GP=1 (5) D (59 点以下) GP=0 (6) F (評価点なし) GP=0 (7) G (認定単位) GP=対象外 GPAは、当該学期に登録したGPA対象科目について計算するものとし、計算値は小数点第3位以下を切り捨てて表記するものとする。 GPAは、当該学期の授業科目ごとに得たGPに当該授業科目の単位数を乗じる計算を、当該学期に成績評価を受けた授業科目分行い、その合計を当該学期の登録単位数の総和で除して算出する。 $GPA = \Sigma (GP \times \text{当該科目の単位数}) \div \text{登録単位数の総和}$ 算出されたGPAは、学期末に発送する成績通知書に明記し学生に通知する。 また、履修登録上限単位数、特待生の選考、成績不振者抽出においてもGPAを利用している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生便覧、本学ホームページにて公表 https://ashikaga.ac.jp/jouhou/ HOME→教育情報→II-4-3. 客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組欄に掲載

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

■工学部■

足利大学は、「以和為貴」を建学の精神としています。工学部創生工学科では、この建学の精神に基づき、「心あるエンジニア」の育成に向けて、所定の学位プログラムに従って124単位の取得を含む卒業要件を満たすことが、卒業認定・学位授与の条件となります。加えて工学部創生工学科では、学則第2条に定めるように、人類の平和と国際社会の発展に貢献でき、創造性と実践力を備えた専門職業人を育成することを目的としています。

この目的の達成度を確認するために、以下の項目に沿った評価を行い、学士（工学）の学位を授与するものとします。

1) 高い倫理観

高い教養を身につけて思いやりのある素直な心を持ち、調和のとれた思考力と規則正しい生活の中から人間性豊かなエンジニアとして、冷静沈着かつ正確に判断することができます。

2) 協調性・表現力

主体性をもって行動するとともに、他人との協調性やコミュニケーション能力を涵養し、聞く人の立場に立って物事を正確に伝え、質問を理解して的確に回答することができます。

3) 創造性・知的好奇心

個々の学生が持つ創造的な潜在能力と知的好奇心を自ら喚起し、各人の固有な能力を最大限に発揮させるように継続的に学修することができます。

4) 挑戦力

自己の研鑽と地球環境の改善や地域の発展に貢献することができます。

■看護学部■

人を取り巻く環境の理解に関わる幅広い教養と豊かな人間性をもち、看護専門職として高い倫理観と看護実践能力を備えることによって、学士（看護学）の学位を授与する。そのために、以下の人材育成方針を掲げる。

1) 人間を様々な側面を持つ存在とし包括的に捉えることができる人材育成

2) 人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人材育成

3) 科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し、計画的に実践できる能力を備えた人材育成

4) あらゆる健康段階、ライフステージにある対象に対して看護を展開し、評価できる人材育成

5) 多様な環境において保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、多職種の人々と協働して社会貢献できる人材育成

対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成

6) 自己の成長を目指し、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学生便覧、大学案内、ホームページにて公表
<https://ashikaga.ac.jp/jouhou/>
 HOME→教育情報→II-4-1.ディプロマポリシーに掲載

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	足利大学
設置者名	学校法人足利大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページに掲載している事業報告書の19ページ参照 https://ashikaga.ac.jp/jigyouthoukoku/
収支計算書又は損益計算書	ホームページに掲載している事業報告書の20～22ページ参照 https://ashikaga.ac.jp/jigyouthoukoku/
財産目録	ホームページに掲載している事業報告書の23ページ参照 https://ashikaga.ac.jp/jigyouthoukoku/
事業報告書	ホームページに公表 https://ashikaga.ac.jp/jigyouthoukoku/
監事による監査報告(書)	ホームページに掲載している事業報告書の32ページ参照 https://ashikaga.ac.jp/jigyouthoukoku/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://ashikaga.ac.jp/unievaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部、看護学部
教育研究上の目的（公表方法：学生便覧、ホームページ） https://ashikaga.ac.jp/jouhou/ HOME→教育情報→I-1. 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的
（概要） 工学部では、「和」の精神を基として、高い倫理観、協調性・表現力を身につけるとともに、創造性と実践力を兼ね備えた専門職業人を育成する。 看護学部では、「和」の精神を基として、高い倫理観を根底においた人間関係の調和、あらゆる看護対象に対応し得る科学的実践力、地域医療への貢献、自らのキャリアデザインによる自己研鑽ができる専門職業人を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、ホームページ） https://ashikaga.ac.jp/jouhou/ HOME→教育情報→三つのポリシー
（概要） 工学部では、人類の平和と国際社会の発展に貢献でき、創造性と実践力を備えた専門職業人となることを目指し、高い倫理観、協調性・表現力、創造性・知的好奇心、挑戦力を備えることによって、学士（工学）の学位を授与する。 看護学部では、人を取り巻く環境の理解に関わる幅広い教養と豊かな人間性をもち、看護専門職として高い倫理観と看護実践能力を備えることによって、学士（看護学）の学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、ホームページ） https://ashikaga.ac.jp/jouhou/ HOME→教育情報→三つのポリシー
（概要） 工学部では、創造性と実践力を兼ね備えた心あるエンジニアの養成という教育方針を理解し、工学に対しての学修・研究意欲の高い学生に対し、一般教養とともに専門分野の基礎知識と応用力が確実に修得できるようなカリキュラムを編成している。 専門分野では、基礎教養としての自然科学からスタートして専門基礎科目に繋げていき、高学年で応用力を養うように科目を配置している。 看護学部では、年次進行に伴い基礎から応用へ教科目を配置している。教科目の構成は看護師・保健師・養護教諭の資格が取得できるようにし、看護実践能力に必要な教育内容と学習成果をもとに各科目内容をデザインしている。 また、授業形態は、講義・演習・実習を通して、体験によって、知識・技術が修得できるように配置するとともに、学生が主体的に学修できるように学修環境を整えている。

HOME→教育情報→三つのポリシー

- ・人に対して思いやりをもって、人と人との調和を大切にできる人。
- ・人の健康保持増進に興味があり、そのことに貢献したい意志がある人。
- ・人を取り巻く環境（人・社会・自然）に興味・探求心をもつことができる人。
- ・学修に対する意欲が旺盛で、積極的に何事にもチャレンジできる姿勢をもっている人。

公表方法 : <https://ashikaga.ac.jp/jouhou/>

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2 人	—					2 人
工学部	—	27 人	10 人	13 人	2 人	0 人	52 人
看護学部	—	6 人	3 人	5 人	2 人	4 人	20 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		99 人					99 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://ashikaga.ac.jp/jouhou/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
工学部では FD シンポジウムのほかに FD 活動として、かねてより授業評価アンケートで高い評価を得ている授業について、他の教員が見学をし、自身の授業運営の改善の参考とする「授業公開」を行ってきた。令和 6 年度からは授業評価アンケートの評価にかかわらず全ての授業を見学できるように変更し授業のさらなる質の向上を目指している。 看護学部においては FD 委員会を中心に年数回、教育活動にまつわる研修会を開催している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに
進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	300 人	214 人	71.3%	1200 人	873 人	72.8%	一人	7 人
看護学部	80 人	68 人	85.0%	320 人	294 人	91.9%	一人	0 人
合計	380 人	282 人	74.2%	1520 人	1167 人	76.8%	一人	7 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	249 人 (100%)	10 人 (4.0%)	207 人 (83.1%)	32 人 (12.9%)
看護学部	74 人 (100%)	0 人 (0%)	72 人 (97.3%)	2 人 (2.7%)
合計	323 人 (100%)	10 人 (3.1%)	279 人 (86.4%)	34 人 (10.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
令和 7 年度実績				
工学部				
就職先				
企業：東京電力ホールディングス（株）、大和ハウス工業（株）、（株）L I X I L、ミネベアミツミ（株） （株）アマダ、大東建託（株）、富士ソフト（株）、（株）すかいらーくホールディングス、サンデン（株） （株）S U B A R U、（株）安藤・間、（株）カワチ薬品、（株）浅沼組、飛島建設（株） （株）鴻池組、（株）ミツバ、（株）東急コミュニティー、 デジタル・インフォメーション・テクノロジー（株）、J R 東日本メカトロニクス（株）、（株）ホンダ テクノフォート、富士エアロスペーステクノロジー（株）、（株）一条工務店、 （一財）関東電気保安協会、（株）積水化成品関東、茨城セキスイハイム（株） など				
公務員：栃木県教育委員会、群馬県、鹿沼市、秩父市				
進学先：足利大学大学院、宇都宮大学大学院、筑波大学大学院				
看護学部				
就職先				
病院：足利赤十字病院、自治医科大学附属病院、佐野厚生総合病院、太田記念病院、羽生総合病院、 獨協医科大学病院、富山大学附属病院、埼玉医科大学総合医療センター、東邦大学医療センター大森病院、 日本医科大学千葉北総病院、東京共済病院、芳賀赤十字病院、水戸赤十字病院、済生会宇都宮病院、 行田総合病院 など				
公務員：宇都宮市				
進学：マロニエ医療福祉専門学校助産学科				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	293 人 (100%)	200 人 (68.3%)	45 人 (15.4%)	48 人 (16.4%)	0 人 (%)
看護学部	88 人 (100%)	73 人 (83.0%)	7 人 (8.0%)	8 人 (9.1%)	0 人 (%)
合計	381 人 (100%)	273 人 (71.7%)	52 人 (13.6%)	56 人 (14.7%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業科目については、学則別表にて科目の分類及び単位数が定められており、開講年次・学期及び授業の方法・内容等の授業計画についてはシラバスで確認することができる。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 【工学部】 教養科目から 32 単位以上、専門科目から 80 単位以上、合計 124 単位以上。 【看護学部】 ・看護師国家試験受験資格取得のみの者 人間の理解と科学的思考科目群から 19 単位以上、専門基礎科目群から 27 単位以上、看護専門科目群から 78 単位以上、合計 124 単位以上。 ・看護師及び保健師国家試験受験資格取得の者 看護師の卒業要件に加え、「公衆衛生看護学科目」の指定された科目を修得し、合計 132 単位以上。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	創生工学科	124 単位	有	26 単位
看護学部	看護学科	124 単位	有	26 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://ashikaga.ac.jp/jouhou/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工学部	創生工学科	1,260,000 円	270,000 円	円	
看護学部	看護学科	1,480,000 円	270,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ◎個別履修プログラム 履修登録前に、クラス担任が個別面談をして、学生一人ひとりの希望に適した履修計画をアドバイスする。 ◎習熟度別クラス編成 (工学部) 1年生の数学・物理・英語の授業は習熟度別に履修推奨科目が提示される。入学後に実施するプレースメントテストの結果により、推奨科目が提示される。 ◎出席管理システム 授業開始後に携帯電話を用いて出席をとり、出席・遅刻・欠席の調査をする。このデータは授業ごとに自分で出席状況を確認できる。また、クラス担任もこのデータを学生指導に活用している。 ◎オフィスアワー あらかじめ設定された時間帯に教員が研究室や指定した場所で待機し、学生の質問や相談等に応じる制度で、授業の内容や学修の進め方、レポート指導、その他いろいろな疑問に応じている。 ◎学習支援室 学習支援室では、数学・物理・化学・英語の基礎学力強化を目標に開設し、きめ細やかな学習指導をしている。一对一の学習サポートで学生自身のペースで学ぶことが出来る環境となっている。 ◎教育相談会 夏期、春期休業期間に学生及び保護者を対象とした教育相談会を実施している。教育相談会ではクラス担任による修学状況の説明の他、学修、生活両面での悩み相談ができる機会としている。特に成績不振の学生については大学側から保護者に出席を依頼し、卒業に向けた修学計画の指導や学生の要望を踏まえた進路指導が行われる
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ◎フレッシュマンキャンプ 共に学び合うクラスメイトや教員との親睦を深めるため、入学当初に実施する見学旅行プログラム。キャンプでは、授業に向けての履修指導や学内オリエンテーション及び日帰り見学会を行う。 ◎ソフォモアキャンプ (工学部) フレッシュマンキャンプを発展させた2年生のための体験学修。学修意欲の向上・職業意識の啓発のために、日帰りで工場や建造物等の見学を行っている。 ◎就職支援 (キャリアブリッジプログラム) 低学年からのキャリア教育の他、教員とキャリアセンタースタッフが密に連携し、学生一人ひとりの個性や能力に合わせたきめ細やかな就職指導を行う「キャリアブリッジプログラム」が構築されている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ◎学生相談室 学生相談室では、大学生活のこと、進路や将来のこと、人間関係のこと、どんなことも専門のスタッフが相談に対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://ashikaga.ac.jp/jouhou/

任意記載事項

総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組みに関すること

足利大学 データサイエンス・AI 教育プログラム
(概要) データサイエンスおよびAIの基礎的な知識を修得し、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付け、第4次産業革命、Society 5.0の社会に必要とされる人材を育成するために展開されているプログラム。プログラム修了者には修了証を交付する。 なお、本プログラムは全学生を履修対象とする「リテラシーレベル」と工学部の学生を対象とする「応用基礎レベル」があり、前者は2021年に文部科学省 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(MDASH)のリテラシーレベルに認定されている。また、応用基礎レベルについても2024年度のMDASH応用基礎レベルに認定されたプログラムとなっている。 足利大学データサイエンス・AI教育プログラム URL：https://ashikaga.ac.jp/act2024/ https://ashikaga.ac.jp/madaai-prog/
足利大学 地域DX化教育プロジェクト
(概要) 本学を含め地域企業や地域団体等における情報に関する問題点や課題を収集し、学生が実社会の課題にチャレンジする。大学で学んだことがどのように現実社会で役に立てることができるのかを実感してもらうと同時に、学生の地域企業や地域団体等への貢献、併せて地域社会のDX化を目標とする情報教育プロジェクト。地元商工会議所を通じ足利市内の企業と連携した教育活動となっている。 実施した課題の成果をプレゼンテーションし、実際の企業や地域団体にて評価を行ってもらう。評価された内容を基に担当教員が単位認定を行う。 URL：https://ashikaga.ac.jp/act2024/
足利大学 CN教育プログラム
(概要) 地球温暖化による様々な気象災害を抑制するためにカーボンニュートラルの実現は喫緊の課題であり、国、自治体、事業者だけでなく一人ひとりにとっても正しく理解し、取り組むべきものである。本プログラムではカーボンニュートラルおよび再生可能エネルギー、省エネルギーに関する知識及び技術を日常生活や仕事等の場で使いこなす基礎的素養を身に付けることをねらいとしている。 工学部全学生を対象に、対象科目の修得を以て学内認定を行う。 URL：https://ashikaga.ac.jp/act2024/ https://ashikaga.ac.jp/cn-prog/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F109310101561
学校名（〇〇大学 等）	足利大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人足利大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		240人（ 127 ）人	231人（ 121 ）人	249人（ 133 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	54人	46人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅱ区分	42人	42人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅲ区分	14人	17人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	24人	24人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	30人	22人	
	区分外（多子世帯）	76人	81人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				249人（ 133 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	-	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	13人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	-	人	人
GPA等が下位4分の1	13人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	14人	人	人
計	18人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。